

実質化された人・農地プラン

市町村名	対象地区名(地区内集落名)	作成年月日	直近の更新年月日
備前市	畠田地区	令和3年3月22日	

1 対象地区の現状

①地区内の耕地面積	14.3ha
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	10ha
③地区内における70才以上の農業者の耕作面積の合計	7.1ha
④自分が所有する農地について、将来自らが耕作を継続または後継者が耕作する面積の合計	2.1ha
<p>(備考)アンケート調査による主な意見、要望等</p> <p>○将来の地区の在り方について、①地域農業を支える農家に農地を集める、②農作業を共同で取り組む組織をつくる、③分散している農地を交換して集める、④新しく就農する人を増やすことへの回答あり。</p> <p>○将来農業をやめる要因として、①農業機械の故障・更新、②体力的あるいは年齢的に農作業が困難、③収益が確保できない、④後継者が不在との回答あり。</p> <p>○鳥獣被害の発生に苦慮しているとの回答あり。</p> <p>○後継者不在との回答あり。</p> <p>○農業法人を設立し、地区内農地の有効利用を図るべきとの回答あり。</p> <p>○高齢化等により農業経営が困難な状況であり、農業以外の土地利用を検討すべきとの回答あり。</p>	

2 対象地区の課題

○耕作者が少なく、今後地区の農地が持続的に耕作されていくのか心配である。
○農業用水の利用が容易で水稲作付けに適している一方、ほ場が狭隘であり、農地の荒廃が進んでいる。

3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

地区内の農地利用は、現在の耕作農地を持続的に維持していくことを念頭に、中心経営体2名の他、地区外からの耕作者も含めて農地の継続利用を進める。
--

4 3の方針を実現するために必要な取組に関する方針(話し合いに基づく取組の方向性)

<p>①地区の優位点</p> <p>○道路幅が広く、農業用水の利用が容易で水稲作付けに適している。(農業面)</p> <p>○地区の交通アクセス及び住環境が良好である。(生活面)</p> <p>②取組の方向性</p> <p>○地区の優位性を活かしつつ、「儲かる農業」を目指して行政との連携や薬用作物等の特産物栽培、若年層や地区外からの耕作者の呼び込み等の検討を進める。</p>
--